

総会基調報告

2019.9.28 計測会会長 守田賢一

「計測会の今後をどうするか」

1. 計測会として

現在の学生は、昔の校舎で共通の先生に教わったという郷愁を共有することは無くなっており、さらに今年4月からは計測と名の付くコースも無くなり(今までは機械工学科計測系プログラムがあった)、いよいよ計測会とのつながりを意識するものが全く無くなっています。

また、今の学生は、個を大事にし、少人数のグループで活動する(木村先生談)ともいわれています。ただ、この点では昭和年代の卒業生でも各学年毎では同窓会を開いて集まっているが、計測会全体の集会は必要性を感じないという声も聞きます。

この点で、計測会全体で集まることに意味がある、というものを目指す必要があり、それを計測会として追及していく必要があります。

今後は年1回の総会を魅力あるものにしていこうと思っています。

2. 物理工学科との連携

物理工学科の応物分野には計測出身の先生方が多く在籍されており、物理工学科とタイアップしていくべき、との考えがあります。この場合に物理工学科の学生諸君に計測会として何をしてあげると一番喜ばれるのか、という問題があります。

最近の若い学生に聞くと、今の学生の最大関心事は就職ということです。就職に関しては大学側でもセミナーや企業紹介等、昔とは比較にならないくらい充実した就職指導をしています。

こういう中で、計測会としてどのようなサービスを学生にしてあげられるかが問題です。

本年初めての試みで「計測会就職サロン」を行いました。企業の部長クラスの人と少人数でフランクに話がしたいという学生さんの要望に応えたものです。

今後は、物理工学科とオフィシャルなつながりを構築しつつ「計測会就職サロン」を拡大発展させていきます。

3. 計測会運営協力金の使途

昨年の総会後に計測会運営協力金のお願いをしたところ、最終的に20万1千円の浄財を頂きました。運営協力金の殆どは昭和年代の卒業生からのものでした。

この運営協力金をどう考えるか。昭和年代の卒業生が出しているのだからこの年代の卒業生への還元を主に考えるのか(例えば総会第2部講演の内容)、平成から令和の後輩のために使って欲しい(例えば就職サロンや計測会賞)ということ考えるのか。

おそらく両者であろうということで、今後は運営協力金を計測会員へのサービスと学生へのサービスにバランスよく使っていこうと思います。